

読む

ようすやこうどうをよみとろう(2)

「子どものすきな神さま②」

名前

※もとの文しよの「ぶをかえています。」
「おにごっこしよ。」
「しよよ、しよよ。」
しよして、ひとりの子がリーダーになり、あとの十二人が、一れつにならびました。
「きをつけ。ばんごう。」
とリーダーがごうれいをかけました。

「一ツ。」

「二ツ。」

「三ツ。」

「四ツ。」

「五ツ。」

「六ツ。」

「七ツ。」

「八ツ。」

「九ツ。」

「十ツ。」

「十一ツ。」

「十二ツ。」

と十二人の子もたちがばんごうをいってしまいました。そのとき、だれのすがたもみえないのに、十二ばん目の子どものつぎで、

「十三ツ。」

といった人がいました。玉をころがすようなよこえでした。

そのこえをきくと子どもたちは、

「それ、そこだツ。神さまをつかまえろツ。」

といて、十二ばん目の子どものよこをとりました。

神さまはめんくらいました。いたずらな子どものことだから、つかまったらどんなめにあうかしれません。

ひとりの子どものまたの下をくぐって、神さまは森へにげかえりました。けれど、あまりあわてたのでくつをかたほうおとしてきてしまいました。

子どもたちはゆきの上から、まだあたたかい小さな赤いくつをひろいました。

「神さまはこんな小さなくつをはいてたんだね。」

といてみんなでわらいました。

そのことがあってから、神さまはもうめったに森から出てこなくなりました。それでもやはり子どもがすきなものだから、子どもたちが森へあそびにいくと、森のおくから、
「おおい、おおい。」
とよびかけたりします。

(新美南吉作 にいみなきち 子どものすきな神さま)

【一】一れつにならんでいる子どもはなん人居ますか。あてはまるかずをかん字でかきましょう

人

【二】「十三ツ。」といったのはだれですか。 の中にかきましょう。

【三】神さまはどんなくつをはいていましたか。 の中にかきましょう。

くつ

【四】「子どものすきな神さま①、②」をよんで心にのこったところをえらび、かん字をかきましょう。

読む

ようすやこうどうをよみとろう(2)

「子どものすきな神さま②」

名前

こたえ

※もとの文しようの「ぶをかえています。」
「おにごっこしよう。」
「しよよよ、しよよよ。」
そうして、ひとりの子がリーダーになり、あとの十二人が、一れつにならびました。
「きをつけッ。ばんごうッ。」
とリーダーがごうれいをかけました。

「一ッ。」

「二ッ。」

「三ッ。」

「四ッ。」

「五ッ。」

「六ッ。」

「七ッ。」

「八ッ。」

「九ッ。」

「十ッ。」

「十一ッ。」

「十二ッ。」

と十二人の子どもたちがばんごうをいってしまいました。そのとき、だれのすがたもみえないのに、十二ばん目の子どものつぎで、

「十三ッ。」

といった人がいました。玉をころがすようなよ
いこえでした。

そのこえをきくと子どもたちは、

「それ、そこだッ。神さまをつかまえろッ。」

と、十二ばん目の子どものよこをとりま
きました。

神さまはめんくらいました。いたずらな子ども
のことだから、つかまったらどんなめにあうかし
れません。

ひとりの子どものまたの下をくぐって、神さ
まは森へにげかえりました。けれど、あまりあ
わてたのでくつをかたほうおとしてきてしま
いました。

子どもたちはゆきの上から、まだあたたかい
小さな赤いくつをひろいました。

「神さまはこんな小さなくつをはいてたんだ
ね。」

と、みんなでわらいました。

そのことがあってから、神さまはもうめつた
に森から出てこなくなりました。それでもやは
り子どもがすきなものだから、子どもたちが森へ
あそびにいくと、森のおくから、
「おおい、おおい。」
とよびかけたりします。

(新美南吉作 にいみなきち 子どものすきな神さま)

【1】一れつにならんでいる子どもはなん
人いますか。あてはまるかずをかん字でか
きましょう

十二人

【2】「十三ッ。」といったのはだれですか。
の中にかきましょう。

神さま

【3】神さまはどなくつをはいていま
したか。の中にかきましょう。

小さな赤い

くつ

【4】「子どものすきな神さま①、②」をよんで
心にのこったところをえらび、かんそ
うをかきましょう。

(例) 神さまをつかまえようと

しているところが心にのこりま

した。わたしも神さまとあそんで

みたいです。